

令和 6 年（2024 年）度 産学官・地域連携活動報告書

連携先名称：福島県 双葉町

協定締結日：令和 7 年 2 月 27 日

活動状況：継続中

連携先窓口：双葉町役場 復興推進課 木島芳顕

活動資金：補助金

担当教員（所属）：菅原 優（自然資源経営学科教授）

活動体制（単位）：学科

関連教員（所属）：范 為仁（自然資源経営学科教授）

活動目的：

東日本大震災・原子力災害からの復興を目指す福島県双葉町は、東京農業大学が福島イノベーション・コースト構想推進機構の「大学等の「復興知」を活用した人材育成基盤構築事業」において復興支援に取り組む浪江町に隣接しているものの、2022 年 8 月に特定復興再生拠点区域の避難指示解除（双葉町新庁舎の開庁）が行われたばかりであり、町民の帰還、移住の促進、営農再開に向けて、復興の進捗に伴って生じる新たな課題やニーズに機動的に対応していくことが課題となっている。浪江町で活動するプロジェクトと合わせて、双葉町特有の課題に配慮しつつ、インターンシップ型の教育研究プログラムを実施し、地域企業等との連携による各種の戦略的プロジェクトを展開し、農村地域全体の活性化に取り組むことを目的としている。

活動内容・成果：

第 1 に、双葉町における学生の学び、現地での活動として、自然資源経営学実務演習のコース希望者（6 名）に対して、定期的に学習会を行った。6 月 14 日にはオンラインで事前学習を行い、双葉町役場職員から双葉町および営農再開の現状についてレクチャーを受けた。その後、8 月 26 日・27 日に教員 1 名学生 6 名が双葉町にて、伝承館・浅野撚糸(株)の見学、町内視察（産業交流センター、ブロッコリー圃場、水田試験圃場、食品残渣で消化液を製造している現場）、水田の水路維持管理作業、意見交換やワークショップを行った。ワークショップでは、双葉町産業交流センター内の飲食店（ペンギン）のブロッコリーメニューの

開発をテーマに検討し、メニューの方向性を定めた。その後は自然資源経営学実務演習のなかでブロッコリーを用いたレシピづくりと試作品開発を行った。12月20日は、教員2名と学生5名が参加して双葉町でブロッコリーの収穫作業を行い、駅西住宅にてブロッコリーの新メニューの調理・試食会を実施し、ペンギンの代表や駅西住宅住民との交流を深めることができた。(別添資料①②)

第2に、双葉町および関係企業との関係構築として、学生による現地活動を実施する中で、双葉町が抱える東日本大震災後の地域再生と活性化に関わって、営農再開や地域再生のための復興知に基づいた経済、産業、環境、健康及び人材育成等の分野においての相互の包括的な連携協定の締結を2月27日に双葉町において行うことができた。(別添資料③)

課題・改善点：

双葉町は、東京農業大学が2018年度から福島イノベーション・コースト構想推進機構の事業のなかで支援活動を行ってきた浪江町と隣接し、震災前の農業の課題は共通するものの、避難指示解除にタイムラグが存在しているため、復興の進捗には開きが生じている。そのため、単に浪江町で実施してきたプログラム内容を展開するのではなく、双葉町特有の課題解決に向けた丁寧な支援活動が必要となってくる。

また、包括的連携協定を締結した意図は、農業の再生や営農再開に向けた具体的な課題解決の進度に合わせて、全学的な研究・教育のリソースを活かしていく必要があるためであり、2025年度以降は「双葉町農業支援プロジェクト」として実施する。当面は浪江町のプロジェクトメンバーを中心に実施するが、双葉町の課題ニーズに沿って、新たな学内での協力スタッフを拡充していくことが課題となってくる。

別添資料：

- ① 「広報ふたば」2025年2月掲載内容
- ② 東京農業大学の学生が福島県双葉町でのブロッコリー収穫作業を通じて復興に向けた営農支援 <https://www.nodai.ac.jp/news/article/31915/>
- ③ 復興への一步を着実に、福島県双葉町と包括連携協定を締結 <https://www.nodai.ac.jp/news/article/31934/>

**** 人権作文コンテスト表彰 ****



▲ 金成さん（写真左）と高橋さん（写真右）



▲ 新田勇雄校長

12月19日、双葉中学校において、「第43回全国中学生人権作文コンテスト福島県大会」奨励賞を受賞した高橋梨奈さんといわき協議会奨励賞を受賞した金成心花さんに、福島地方方法務局いわき支局 及川朝也局長から表彰状の伝達がありました。また、双葉中学校の人権作文への取り組みに対しても感謝状が贈られ、新田勇雄校長が学校を代表して受け取りました。

ふたば幼稚園だより

ふたば幼稚園での日常の様子をお知らせします。



お楽しみ英語活動（小学生との交流）

お楽しみ英語活動の一環で、「クリスマス会」に手作りのサンタ帽子をかぶり、小学生の待つ教室へ行きました。サンタ帽子をかぶった幼稚園児は小学生たちに「かわいい！」「すごく似合ってる！」と言われて喜んでいましたが、ゲーム大会が始まると真剣な顔で参加していました。iPadを使うゲーム大会は少し難しかったのですが、問題の内容を伝え一緒に考えながら楽しむことができました。答えを間違えた時はとても悔しがり、正解すると大喜びで先生方とハイタッチをして、楽しい時間を過ごしました。

【問い合わせ先】 ふたば幼稚園 ☎ 0246-88-8084

東京農業大学の学生が町内で現地学習

12月20日、東京農業大学自然資源経営学科の菅原優教授、范為仁教授と学生5人が、「復興知事業」（大学等の知見を活用し人材育成を行う事業）を利用し、双葉町内で昨年8月に続き今年度2回目の現地活動を行いました。双葉町で栽培するブロッコリーを使ったメニュー開発の取り組みとして、今回は下羽鳥地区の木幡治さんの農地で収穫体験と、駅西住宅集会所で収穫したブロッコリーを使い学生が考案したメニューの試作（サンドイッチ、サラダとブロッコリーチップス）を調理しました。試作にはペンギンの山本敦子さんや町民も参加し、試食して意見交換を行いました。



広報ふたば



【表紙写真】 橋の上から見えた景色（双葉町はたちを祝う会）

